

少林寺拳法



防衛大学校少林寺拳法部

平成9年度 部誌・OB会報 NO. 24

目 次

部

誌

- 1 部長挨拶 教授（応用化学） 菅 野 等
- 2 学生寄稿
 - 4 2 期 主将 古賀 信之
 - 4 2 期 副将 清水 辺 大
 - 4 3 期 主将 廣瀬 繁
 - 4 3 期 副将 荒栄 拓也
 - 4 4 期 西尾 実
 - 4 4 期 増山 哲治
 - 4 5 期 澤田 克也
 - 4 5 期 八木 新

3 平成9年度 活動成果報告

4 部長・顧問・4 3 期幹部名簿

5 部員名簿

6 平成10年度年間計画

奥平会報

1 巻頭言 奥平会会長 鈴木 陽

2 平成9年度奥平会活動概要

(1) 現役部員に対する支援

(2) 総会の実施

(3) 平成9年度会計報告

(4) 連絡事項

(5) 奥平会名簿

ご挨拶

部長 菅野 等

合掌

少林寺拳法部のOB諸兄には良い年をお迎えのことと思います。昨年を振り返って見ますと、国の内外ともに多事多難な年でありました。ペルーの事件は幸いに最小の犠牲で無事解決して、これで景気が回復すれば良い年だったと言えたのかも知れませんが、秋になるとタイの通貨不安を契機として東南アジアの多くの国で通貨の暴落が起き、日本でも景気の回復どころか恐慌の可能性さえささやかれる事態になってしまいました。早く金融システムが安定して景気が力強く回復して欲しいものですね。

OB諸兄には防衛大学校の少林寺拳法部は万事順調で何も心配事はありませんと言いたいのですが、最近の学生気質の変化が影響しているのか、年ごとに入部する学生数が減少すると言う深刻な問題を抱えております。日本の景気と同じ(?)でなかなか回復の兆しが見えないところが、心配なところです。しかし、部員数は少なくなっても、良く練習し技量の向上と精神の修養に邁進する防衛大学校少林寺拳法部の伝統は良く守られ、秋の全日本学生大会においては団体演武で最優秀を獲得するなど頑張っております。

来年の挨拶状には、部員数が増加に転じたと報告できるように努力したいと思っております。本年も暖かいご支援とご指導をいただけるとお願い致します。

結手

「政権を終えて」

42期主将 古賀 信之

合掌

我々42期が43期に政権を譲り、早2ヶ月が過ぎようとしています。政権担当時は、部運営、指導の難しさを痛感し、おそらく43期も我々と同じようなことに悩んでいることと思いますが自信を持って頑張ってください。

43期以下、部員はそれぞれの初心を忘れることなく、向上心をもって日々精進に励んでください。また、近年部員の減少が深刻化していますが、その問題を解決し、今以上に活気のある少林寺拳法部にしてください。

最後になりましたが、師範、部長をはじめ監督、顧問の方々に深く感謝すると共に、今後とも変わらぬ御支援、ご指導を賜りますよう宜しくお願い致します。

結手

「政権の務めを終えて」

42期副将 清水辺 大

合掌

防大の数多くの校友会の中から少林寺拳法部を選び、入部してから引退までに3年半の間で学んだことは、とても多すぎてここには全てを書き尽くすことは出来ません。しかし、私がおもっても強く心に刻まれたことを書くとするならば、それは4年間続けることに意義があるということです。教えられる側と教える側、指導される立場とする立場の両方を経験して初めて物事の本質を垣間見ることが出来、深く洞察することが可能となります。どのような技でも、己の未熟さを自覚しつつ試行錯誤しながら下の者に教えていくことで、より自分の物とすることが出来ます。後輩諸君は辛いことも多かろうとは思いますが、自分なりの信念を持ち、頑張っていってください。

最後に、師範、部長、監督、顧問、OBの方々には大変お世話になりました事、心から感謝申し上げます。今後とも少林寺拳法部への変わらぬ御指導、御支援宜しくお願い致します。

結手

「自己確立」

43期主将 廣瀬 繁

合掌

現在、我が防大少林寺拳法部は、部員が減少し、本気で部の存続について考える時期が来ていると思います。その中で、部を活性化し、魅力ある部にするためには、部員一人一人の「自己確立」が大切だと思います。

少林寺拳法の本質が「人づくり」にあるのと同じように、防大少林寺拳法の本質は「指揮官づくり」にあると思います。この本質に沿うためには、各部員が防大少林寺拳法部員としての誇りと、自信を持ち、各学年がその立場を自覚し、自己確立に精進することが必要であると考えます。そして、我々43期は部員の自主性を尊重して、良い修養の環境を作っていく、それを通して我々も自己確立に精進したいと思います。そして、何よりも多くの部員を確保し、部の再興の礎とされるように全力を尽くしていきたいと思います。

最後になりましたが、今後ともOB諸先輩方の変わらぬ御支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

結手

「防大に於ける少林寺拳法部の意義」

43期副将 荒栄 拓也

合掌

少林寺拳法は、実はとてもすごいものではないか、と最近思うようになりました。私も拳法を始めて約3年ほど経ち、ようやくそれが分り始めてきました。例えば、急所を覚えることにより、様々な攻撃に対処できたりすることです。自ら知ろうとすればするほど、少林寺拳法が奥の深いものであることを痛感します。

さて、本題に入ります。我々防大生は将来、人の命を預かります。そういう人間になる義務があります。他人を守るには、己に余裕がなければなりません。それを育成するのが我が少林寺拳法部だと思います。身体を鍛えることに終わりではなく、われら部員一同、校友会活動だけにとどまらず精進したいと思います。人は生まれながらにして死に向かうという矛盾の中で己を鍛えることの意味を知らなければなりません。

最後になりましたが、諸先輩方の今後とも変わらぬ御支援宜しくお願い致します。

結手

合掌

私が少林寺拳法を始めてからもう二年が経とうとしています。入校前にはその存在すら知らなかった少林寺拳法でしたが、偶然四学年の方に誘われて入部してから私の人生は一変しました。

入部当初はただ、「体力をつけよう」程度の漠然とした考えしか持っていなかった私ですが、少しずつ少林寺拳法を知るにつれて、「もっと強くなろう」「もっと上手くなろう」と少しずつ欲が出るようになりました。白帯、茶帯、そして念願の黒帯と武階が上がるにつれて、その欲求はだんだんと強くなっていったのです。

昨年5月の関東学生大会と11月の全日本学生大会に出場して痛感したのですが、やはり上には上がおり、同じ初段でも私より数段上手い他校の学生の演武を見て、「上手だな」と思うと同時に、「負けるものか」という闘志が湧きあがってきました。勝つことが全てではないにしても「負けたくない」「勝ちたい」と言う気持ちは大変重要なものだとは思っています。なぜならこのことは向上心につながり、向上心を失っては駄目だと思うからです。これからも向上心を忘れず精進したいと思っています。

最後に、我々44期を指導して下さった42期の方々に御礼申し上げます。

結手

「私と少林寺拳法との出会い」

44期 増山 哲治

合掌

私が吹奏楽部から少林寺拳法部へ転部したのは一年の後期、ちょうど「茶帯しばき」の時期でした。もちろん私は「即死」でした。

私が転部しようと思ったのは、楽器の練習中にいつも目に入っていたアリーナ2階からの練習風景が切っ掛けでした。元々ボクシングやK1などの格闘技が好きだった私は楽器そっちのけで見ていたものでした。

しかし、いざ転部を考えるようになるとなかなか勇気がいるもので、周りの人に相談すると返ってくる答えは「絶対やめとけ」「学校やめることになるぞ」など猛烈な反対ばかりでした。迷っていた私は、同じブロックの上級生の方に相談したところ、次の瞬間には迷う余地なく転部が決定していました。そうして現在に至っています。

この1年間で、武道は人を傷付けるためのものではなく、その傷付け合うのを退けるためのものだということがわかりました。また、自分に負けない強さ、そして、人にやさしくできる強さと言ったものを手に入れることが現在の私の目標となっています。

今でも同期のみんなに付いていけるとはまだまだ言い難いのですが、5級だった体力検定が3級に上がるなど徐々にではありますが、成長していると思います。

これからも、あと残り二年間、防大少林寺の伝統を絶やさぬよう日々努力していこうと思います。

結手

合掌

45期少林寺拳法部員の澤田です。私たちの期の部員は6人です。以前の「石を投げれば少林寺拳法部員に当たる」と言われていた時代が信じられないほどです。学生の競技人口も年々減少しつつある様子です。サッカーやバスケットボールを中心とする球技に人気が集まっているからでしょうか。

しかし、指導は部員が少ない故の密度の濃いもので、主に最高学年の方々の手によって行われています。全国でも最高峰のレベルの方々に教えて頂くことは自信にもつながり、とても有り難く思っています。

まだ入部したてなので相対的なことは言えませんが、自分自身としてはかなり厳しい雰囲気を感じます。これは防大という空間が特異であるということがあげられると思いますが、その中でも防大少林寺拳法部は更に特異な雰囲気を持っていると思います。軽い気持ちだけではやっていけない重厚な雰囲気があります。あくまでスポーツではなく格闘技としての少林寺拳法をすること、またその為の心構えをつくることに力を入れているように思います。

部員は少なくてもよいと思います。あくまで武道は自分を見つめ合うことであり、他人と競うことは手段であっても目的ではないと考えています。そして、学生の時だけではなく、生涯続けていくことが重要であると思います。また他の球技等と違い、それが可能な奥の深さを持っているのも武道の良いところだと思っています。そして、私が少林寺をする理由もそこにあります。

結手

合掌

昨年四月に私たち45期が入校し、五月に少林寺拳法部に入部してから一年が経とうとしています。入部当初は少林寺拳法について何も知らなかったのですが、夏合宿、全国大会、そして42期から43期への政権交代と経験してきて、少しずつ防大少林寺拳法というものが分かってきた気がします。たとえば、夏合宿は苦しいこともありましたが、終わった時の充実感と解放感是他では得られないものだと思います。同時に、乗り越えたことで自分に自信が付き、少しの困難があっても気合で乗り越えることができるようになってきていると実感します。

少林寺拳法の技はむずかしいですが、日々の積み重ねで、いつか私も上級生のようになる、と意気込んでいます。43期政権は先の全国大会で日本一を取ったので、私たちも誇りに思っています。

防大少林寺拳法部は常に直接指導して下さるのは先輩で、師範ではないにもかかわらず強い部であることは素晴らしいことだと思います。

これからも政権を信頼し、同期の団結を大切にしながら頑張っていこうと思います。そして、いつの日か気合のある拳士になりたいと日々修業に励んでいます。

結手

平成9年度成果報告

関東学生連盟大会(平成9年5月4日;日本武道館)

少拳士の部	最優秀賞	422(4)土本邦義・441(4)古賀信之
男子二人掛の部	優良賞	123(4)永島 透・132(4)清水辺大 231(4)尾崎公彦
団体演武の部	優秀賞	111(4)平野仁之・112(3)松口俊三 121(3)荒栄拓也・131(3)梅原 航 142(3)作田雄一・213(3)江畑泰孝 221(3)森脇竜二・232(3)小澤一隆 233(3)與藤公彦・411(3)廣瀬 繁 443(3)関 大吾・443(3)古谷尚久
級拳士の部	決勝進出	411(2)渡辺俊明・441(1)八尋幸一
	予選落ち	133(2)増山哲治・223(2)若林友和
男女混合の部	決勝進出	331(2)西尾 実・441(2)遠藤由紀子

全日本学生大会(平成9年11月2日;日本武道館)

中拳士の部	予選落ち	241(4)井田輝彦・441(4)古賀信之
二人掛の部	予選落ち	123(4)永島 透・132(4)清水辺大 231(4)尾崎公彦
団体演武の部	最優秀賞	112(3)松口俊三・121(3)荒栄拓也 131(3)梅原 航・142(3)作田雄一 221(3)森脇竜二・411(3)廣瀬 繁 431(3)春日英男・443(3)古谷尚久
男女混合の部	決勝進出	331(2)西尾 実・441(2)遠藤由紀子
准拳士の部	予選落ち	133(2)増山哲治・441(1)八尋幸一
級拳士の部	敢闘賞	241(1)八木 新・443(1)澤田克也

部長・師範・顧問及び43期幹部名簿

1 部長・顧問

	所 属	内線	氏 名	住 所	電話番号
部長	化学教室 教授	2401	菅 野 等	〒236-0042 横浜市金沢区登戸6-34-1-411	045-786-5877
師範	正統士7段		田 村 倉 蔵	〒187-0041 小平市美園3-27-5	03-3261-0955
”	三多摩副院長 大準士6段		神 田 憲 和	〒272-0015 市川市瑞高2-12-5-705	0473-33-6645
”	准統士6段		頼 富 英 武	〒238-0315 横須賀市林5-6-11	0468-56-7663
”	防衛学教室事務室	3867	岩 谷 正 一	〒238-0021 市内富士見町1-49第2ミナト館205	0468-23-6960
監督	3 1 中隊指導教官	2731	山 田 顕 嗣	〒239-0811 横須賀市走水2-26 A-305	0468-44-1598
顧問	学生課長補佐	2100	佐々木 二 郎	〒239-0811 横須賀市走水2丁目無番地 C-4-1	0468-43-5456
”	陸上防衛学教室	3807	米 山 多佳志	〒239-0811 横須賀市走水2-26 J-303	0468-41-9277
”	1 2 3 小隊指導教官	2612	町 島 敏 幸	〒239-0814 横須賀市二葉1-55 C-205	0468-43-0508
”	1 4 1 小隊指導教官	2614	増 田 友 晴	〒239-0811 横須賀市走水2-26 A-105	0468-41-8870
”	訓練部学生課補導係	2643	渡 邊 浩	〒239-0811 横須賀市走水2-26 A-202	0468-44-1290
”	研究科(総合安全保障)	3180	濱 田 秀	〒239-0814 横須賀市二葉1-55 C-103	0468-41-2355
”	”	”	大 井 一 史	〒239-0814 横須賀市二葉1-55 C-106	0468-43-6410
”	”	”	綿 森 昭 示	〒239-8686 横須賀市走水1-10-20 研究科学生舎	050-393-4162
”	研究科(応物)	2464	大 山 剛	〒239-8686 横須賀市走水1-10-20 研究科学生舎	な し
”	研究科(機械)	2324	平 瀬 慎	〒239-8686 横須賀市走水1-10-20 研究科学生舎	な し
”	研究科(情報)	2435	木 下 治 信	〒239-8686 横須賀市走水1-10-20 研究科学生舎	な し
”	研究科(数物)	3304	黒 子 智 彰	〒239-8686 横須賀市走水1-10-20 研究科学生舎	な し

2 第43期

主 将	4 1 1 (3)	廣 瀬 繁
副 将	1 2 1 (3)	荒 柴 拓 也
統制長	4 4 3 (3)	古 谷 尚 久
道場長	2 1 3 (3)	江 畑 泰 孝
訓練係	└ 1 3 1 (3)	梅 原 航
1 年係		
2 年係	1 1 2 (3)	松 口 俊 三
3 年係	1 4 2 (3)	作 田 雄 一
安全係	4 3 1 (3)	春 日 英 男
師範係	└ 2 3 3 (3)	與 藤 公 彦
OB係		
主 務	└ 4 4 3 (3)	関 大 吾
山 外		
涉 計	└ 2 2 1 (3)	森 脇 竜 二

部 員 名 簿

(平成10年1月1日現在)

期別	小隊	専攻	要員	氏名
42期	1 1 2	数物	陸	葛西 成彦
	1 2 3	国関	陸	永島 透
	1 3 2	数物	陸	清水 辺大
	2 3 1	応化	海	尾崎 公彦
	2 3 2	管理	陸	清水 優*
	2 4 1	電気	陸	井田 輝彦
	4 2 2	機械	海	土本 邦義
	4 4 1	機シ	陸	古賀 信之
43期	1 1 2	電気	陸	松口 俊三
	1 2 1	通信	海	荒栄 拓也
	1 3 1	管理	陸	梅原 航
	1 4 2	管理	陸	作田 雄一
	2 1 3	土木	海	江畑 泰孝
	2 2 1	航宇	海	森脇 竜二
	2 3 2	電子	陸	徳永 亘*
	2 3 3	航宇	陸	與藤 公彦
	3 3 2	機シ	陸	藤本 裕介*
	4 1 1	国関	陸	廣瀬 繁
	4 3 1	国関	空	春日 英男
4 4 3	情報	陸	関 大吾	
4 4 3	精機	陸	古谷 尚久	
44期	1 3 3	電子	陸	増山 哲治
	2 2 3	材物	空	若林 友和
	3 3 1	国関	海	西尾 実
	4 1 1	電気	陸	渡辺 俊明
	4 3 3	応化	空	伊藤 恒和
	4 4 1	地科	陸	遠藤 由紀子
45期	1 1 1	理工		堤 允良
	1 4 1	理工		上井 浩史
	2 4 1	人社		八木 新
	4 1 2	理工		澤水 隆一
	4 4 1	理工		八尋 幸一*
	4 4 3	人社		澤田 克也
	4 4 3	人社		津森 聡

*印；留年

平成 10 年度少林寺拳法部年間計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
学校行事			春季休暇	入校式典 春季競技会			夏期定期訓練	夏期休暇	夏期競技会		開校記念祭	冬期競技会 冬期休暇
大会等	12~16 寒稽古	OB杯 競会	春合宿		関東学生大会	新歓 昇段審査		夏合宿 本山合宿		全日本 政権交代		
4 学年	演武 期間	O B 杯	春 合 宿	演武 期間	関 東 学 生 大 会	基 本	昇 段 審 査	夏 合 宿	演 武 期 間	全 日 本 学 生 大 会	政 権 交 代	
3 学年												
2 学年												
1 学年												基 本

奧平會報



巻 頭 言

奥平会会長 鈴木 陽

合 掌

奥平会会員の皆様におかれましては素晴らしい新年をお迎えのことと存じます。昨秋、前任の奥平会会長永富新吉1空佐の後をうけ名誉ある会長の任を勤めさせて頂くことになりました。10年程前、検町に勤務していた陸、海、空自衛官の会員数名と奥平会検町支部の創設に参画した覚えがあり、その直後から検町に勤務する会員が奥平会会長を勤めることになったと思いますので感慨深いものがあります。会員としての私自身を振り返って見ますと、丁度この時期からOB会の活動に対する考え方が変わったと思っております。防大少林寺拳法部を通じて得られた先輩、後輩との「縁」がかけがえのない大切なものであり、OB会員としての繋がりをおこなうために何かしたいという気持ちが強く働きました。その結果の一つが検町支部の設立と支部内での歓送迎会でした。この時始まった催しが検町では今も続けられており大変力強く感じております。会員の皆様もそれぞれの勤務地で同じ様な経験をお持ちではないかと思えます。ここで感じることはそれぞれの立場においてOB会活動に自分なりの意義というか目的意識をもつことが何よりも大切だということです。このことは、簡単ではありますが緩やかな繋がりにあるOB会では特に大切なことだと思えます。昨年3月、本科学生第41期の卒業生19名を加え奥平会は今や会員約625名の大きな組織であります。力を合わせれば色々なことも実現できそうです。現在防衛大学校では運動部の多様化が進み、我が少林寺拳法部も部員数の確保という厳しい現実と戦いながらも立派な活動成果をあげております。会員皆様におかれましては、既に、各地域、各部隊等で少林寺拳法を通じた様々な形での活動に努力されていることと思えますが、それぞれの立場で引き続き会の発展に御努力して頂くことをお願い致します。防大少林寺拳法部を応援するとともに我々卒業生にとって意義のある活動を提供できるような奥平会の運営に努力致しますので宜しく御支援の程お願い申し上げます。

結 手

平成9会計年度会計報告

(H9. 1. 1~H9. 12. 31)

収 入 支 出

収 入		支 出	
1 前年度繰越金	1,098,008	1 平成9年会報発行費	105,270
2 OB会費(41期16名)	832,000	2 少林寺拳法部への支援	
		(1) 各種大会支援	130,000
		(関東、全日本)	
3 支援金	184,963	(2) 各種行事支援	61,792
		(納会、夏合宿)	
4 利息	21,513	(3) 技術向上支援	100,000
		(4) その他	3,090
		3 会費等による少林寺拳法部	20,000
		支援等に対する報償費	
		4 奥平会運営及び活動費	161,000
合 計	¥ 2,136,484	合 計	¥ 581,152
残高(収入-支出) = ¥ 1,555,332 次会計年度繰越			

1 「少林寺拳法創始50周年記念・協賛団体」協力費と、これに対するOB支援について

少林寺拳法が平成9年に創始50周年を迎えるにあたって、少林寺拳法連盟において「少林寺拳法創始50周年記念事業」が計画されました。

その目的は、創始50周年を、少林寺拳法が21世紀へ向けて飛躍するための基盤作りの機会として捉え、その中核となる「開祖と、開祖が創始した少林寺拳法を正しく後世に伝え、もって理想境建設に邁進する」ことです。

その内容は次の3つの分野に分かれています。

(1) 「残す事業」

- ・「少林寺拳法50年史」全3巻の刊行
- ・技術ビデオの制作、「教範」初版本の復刻
- ・開祖法話のデータベース化
- ・視聴覚資料の保存と活用に関するシステム作り

(2) 「足場を固める事業」

- ・拳士データベースの構築
- ・拳士への情報伝達網の拡大と情報交換の促進
- ・拳士間のネットワーク作り
- ・広報紙「50th」の発刊

(3) 「祝う事業」

- ・記念大会の開催

国際大会	1997年9月13日(土)	日本武道館
式典・祝賀会	9月13日(土)	新高輪プリンスホテル
記念祭	9月14日(日)	日本武道館

以上の事業を推進するために、少林寺拳法連盟では1995年から「少林寺拳法創始50周年記念協賛団体」を募集し始め、奥平会へも1997年春に協力の要請がありました。

その内容は、1口2万円又は10万円による協力であり、これに対して奥平会として、この趣旨に賛同し連盟への積極的な協力を行いたいと考えておりました。

当時、奥平会会計残高の減少によりこの協力ができない状況にありましたところ、陸・海・空各幕僚監部勤務のOBの方々より、協力費に対する多大なる御支援を受けることができたため、10万円の協力を行った次第であります。

よって、この場をお借りしまして御支援を頂いたOBの方々に厚くお礼を申し上げますとともに、御名前を記載してお礼に代えさせていただきます。

なお、本事業への募金協力に対して、連盟からは以下の記念品等を受け取りましたので御報告いたします。

- ・少林寺拳法50年史
- ・初版「教範」復刻本
- ・技術ビデオ「少林寺拳法 そのコツの科学」

少林寺拳法創始50周年記念協賛団体協力費への支援者

番号	期別	氏名	番号	期別	氏名
1	15N	今村 修治	36	25F	坂本 卓巳
2	15N	山崎 富雄	37	25F	藤吉 恵一
3	17A	鈴木 陽	38	25F	尾崎 信朗
4	17A	廣瀬 誠	39	26A	山下 清隆
5	17F	永富 信吉	40	26A	及川 幸夫
6	18A	門野 睦廣	41	26A	金子 寿弥
7	18A	紫村 敬二	42	26A	吉田 英紀
8	18F	長尾 斉	43	26N	市坪 秀明
9	19A	岡部 武典	44	26N	佐藤 寿紀
10	19N	松山 守秀	45	26F	福島 睦
11	19F	磯 光三	46	26F	米子 誠二
12	19F	田中 秀明	47	27A	山之 上哲郎
13	19F	松下 睦裕	48	27A	大場 基美雄
14	19F	郷田 進	49	27A	角南 良児
15	19F	藤井 和弥	50	27A	長合 友造
16	20A	山形 克己	51	27N	山田 洋士
17	20F	田中 和之	52	27N	交口 俊介
18	21F	田原 俊幸	53	27F	高野 宗治
19	21F	松本 修司	54	27F	堀田 隆治
20	21F	平本 行	55	28A	北原 秀章
21	22A	松村 利宏	56	28A	矢野 光宏
22	22A	永柴 文晴	57	28A	湯浅 悟郎
23	22F	野村 勝廣	58	28N	内田 公明
24	22F	小関 信宏	59	28F	今井 邦夫
25	23A	廣塚 雅史	60	29A	立林 剛
26	23N	井口 義定	61	29A	津田 芳明
27	23F	池邊 正	62	29A	蛸原 良雄
28	24A	浅野 博義	63	29F	高松 実
29	24A	稲葉 貞志	64	30A	岩熊 真司
30	24A	堀之内 誠	65	30A	池永 博和
31	24A	山田 雅巳	66	30N	湯浅 秀樹
32	24F	中館 利光	67	31A	池ノ本 八郎
33	24F	清水 尚志	68	32A	小田 益男
34	25A	小野寺 靖			
35	25A	重石 義幸			

2 今後の活動資金について

(1) 9年度の会計について

9年会計年度における特徴として次の点が挙げられます。

- ア 会報発行費削減の実施（印刷・製本の業者委託の取り止め）：
約12万円の削減
 - イ 少林寺拳法部への支援の一部見直し： 約3万円の削減
 - ウ 少林寺拳法創始50周年記念協賛団体協力費に対する支援金：
（陸・海・空各幕僚監部勤務のOBによる） 約15万円
 - エ " 協力費の支払い： 10万円
- （上記ウの支援金を充当）

以上のことから、協賛団体協力費については支援金によって賄うことができたとともに、協賛団体協力費を除いた場合、昨年度と比較して約18万円の支出削減となりました。

(2) 残高推移の試算

今後、今年度と同様に会報発行費の削減および少林寺拳法部への支援の見直しを行った場合、残高の推移を以下のように見積もることができます。

- 2月14日現在の残高 : 約190万円（現4学年(#42)納入済み）
- 1年間の基本的支出平均 : 約50万円（今年度の実績から）
- 新規会員10名分のOB会費 : 約50万円



$$(10名分のOB会費) - (1年間の支出平均) = 0$$

つまり、毎年卒業部員を10名と見積もり、約5万円/人のOB会費を納入した場合、基本的な支出に押さえることができれば、毎年年度始めに活動資金を減少させることなく運営してゆくことができます。

参考として、現在43期は14名、44期は6名であり、今後2年間は平均10名の学生からの会費の納入が見込まれます。

(3) 今後の対策

会報発行費の削減等を継続をする一方で、現状を会員の皆様に報告することにより、支出の抑制に努めます。

学年	氏名	所属	学年	氏名	所属	学年	氏名	所属	学年	氏名	所属
1	山本	山本	2	山本	山本	3	山本	山本	4	山本	山本
5	山本	山本	6	山本	山本	7	山本	山本	8	山本	山本
9	山本	山本	10	山本	山本	11	山本	山本	12	山本	山本
13	山本	山本	14	山本	山本	15	山本	山本	16	山本	山本
17	山本	山本	18	山本	山本	19	山本	山本	20	山本	山本
21	山本	山本	22	山本	山本	23	山本	山本	24	山本	山本
25	山本	山本	26	山本	山本	27	山本	山本	28	山本	山本
29	山本	山本	30	山本	山本	31	山本	山本	32	山本	山本
33	山本	山本	34	山本	山本	35	山本	山本	36	山本	山本
37	山本	山本	38	山本	山本	39	山本	山本	40	山本	山本
41	山本	山本	42	山本	山本	43	山本	山本	44	山本	山本
45	山本	山本	46	山本	山本	47	山本	山本	48	山本	山本
49	山本	山本	50	山本	山本	51	山本	山本	52	山本	山本
53	山本	山本	54	山本	山本	55	山本	山本	56	山本	山本
57	山本	山本	58	山本	山本	59	山本	山本	60	山本	山本
61	山本	山本	62	山本	山本	63	山本	山本	64	山本	山本
65	山本	山本	66	山本	山本	67	山本	山本	68	山本	山本
69	山本	山本	70	山本	山本	71	山本	山本	72	山本	山本
73	山本	山本	74	山本	山本	75	山本	山本	76	山本	山本
77	山本	山本	78	山本	山本	79	山本	山本	80	山本	山本
81	山本	山本	82	山本	山本	83	山本	山本	84	山本	山本
85	山本	山本	86	山本	山本	87	山本	山本	88	山本	山本
89	山本	山本	90	山本	山本	91	山本	山本	92	山本	山本
93	山本	山本	94	山本	山本	95	山本	山本	96	山本	山本
97	山本	山本	98	山本	山本	99	山本	山本	100	山本	山本

其月連絡各科目

1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

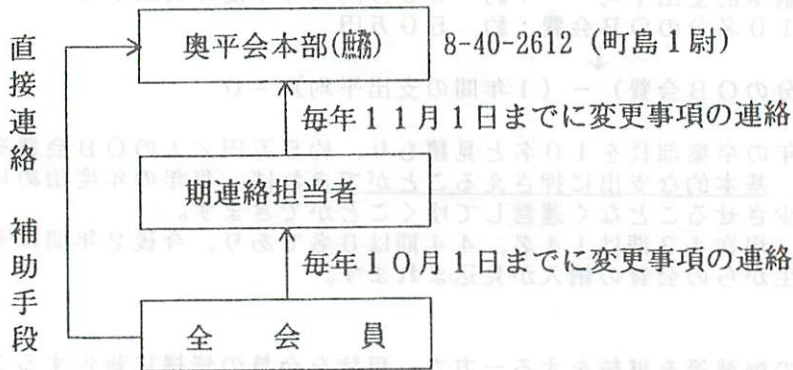
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者を置く。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年10月1日までに同期の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年11月1日までに奥平会本部（防大庶務）に連絡する。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人毎直接または連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとする。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を指名する。（継続を妨げない）

4 期連絡網



5 期連絡担当者(H6.6～)

10	10A	蔵田 弘明	市ヶ谷	26	26F	福島 睦	空幕
11	11A	勝野 建朗	千僧	27	27F	堀田 隆治	檜町
12	12A	衛藤 利治	古河	28	28A	湯浅 悟郎	桧町
13	13A	高本 俊之	日本原	29	29A	古川 靖人	武山
14	14A	清水 重周	東千歳	30	30A	福田 洋司	目黒
15	15A	上杉 和壽	海田市	31	31N	迫田 浩文	大湊
16	16A	富本 啓一	八尾	32	32A	福重 毅尚	富士
17	17A	福澤 賢	伊丹	33	33A	富樫 勇	滝ヶ原
18	18F	笠原 久	檜町	34	34A	竹内 博忠	岐阜
19	19A	前之園敏雄	朝霞	35	35A	戒田 重雄	習志野
20	20A	小林 実	富士	36	36A	藤岡 史生	真駒内
21	21A	湖崎 隆	目黒	37	37N	高取 哲朗	徳島
22	22A	松村 利宏	檜町	38	38A	奇藤 浩	神町
23	23A	日高 政広	檜町	39	39A	中村公多朗	八戸
24	24F	中館 利光	千歳	40	40A	上野洋介	名寄
25	25N	内山 哲也	船越	41	41A	後藤 仁志	守山

奥平会名簿

1 名誉会員

職名	氏名	現所属	連絡先	備考
部長	菅野 等	化学教室	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 6丁目34番 1-411 TEL045-786-5877	防大 2401
師範	田村倉蔵		〒187-0041 小平市美園町3-27-5 TEL0423-43-0416	
師範	神田憲和		〒272-0015 市川市鬼高2-12-5-705	
師範	頼富英武		〒238-0315 横須賀市林5-6-11 TEL0468-56-7663	
前部長	丸川武志		〒120-0046 足立区小台2-33-2 TEL03-3919-5910	
元校友 会会長	土田國保		〒115-0056 東京都北区西が丘1-28-4 TEL03-3900-0409	
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平名譽会長)		〒828-0044 豊前市小石原392-3 TEL0979-82-2287	10期～ 4代離職
"	松木			
"	前原良弘		〒252-0802 藤沢市高倉950-5	
"	松本宏			
"	宍戸俊之		〒237-0071 横須賀市田浦港町24 TEL0468-22-3500	
"	森田晃一			17～19期 指導教官
"	辻 勇雄			S51.12～ S54.1 指導教官
"	今別府政実			S55.3～S57.8 指導教官
"	富野 博			H1.3～H3.8 指導教官
"	米村ゆかり			研究科28期

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
10	A	蔵田 弘明	市ヶ谷	中央調査隊
10	A	黒野 耐	目黒	防衛研究所主任研究官
10	A	清水 蔦男	目黒	幹部学校研究部長
10	A	松島 順一	練馬	練馬駐屯地業務隊長
10	A	三井 光夫		
10	N	岡崎 昭一	退職	231-0821神奈川県横浜市中区本牧原11-1-1103三浦海岸ハイヅ14-1441
10	F	鈴木 勝人	浜松	第1航空団
10	F	出田 弘一		
11	A	勝野 建郎	千僧	千僧駐屯地業務隊付
11	A	須ヶ崎了英	久留米	幹部候補生学校教育部長
11	A	廣岡 征夫		
11	A	水野 照夫	用賀	衛生補給処
11	N	佐藤 正秀	大村	大村航空基地隊副長
11	N	渡辺 貞吉	佐世保	佐世保補充部付
11	F	上田 勇作	退職	南国殖産(株)
11	F	坂元 正昭	退職	
11	F	清水 正睦	松島	第4航空団司令
11	F	田谷 俊之	札幌	北部方面総監部
11	F	藤田 尚	入間	第4補給処副処長
12	A	新井 宏	逝去	
12	A	衛藤 利治	古河	施設補給所総務部長
12	N	佐藤 備凡	横須賀	護衛艦隊幕僚
12	N	津川 保夫	呉	呉地方総監部管理部援護業務室長
12	N	橋田 典幸	呉	潜水艦教育訓練隊副長
12	F	田中 紘治	浜松	空自第1術科学校学生隊長
12	F	野口 昭徳	熊谷	第4術科学校第2教育部長
13	A	石原 薩雄	北熊本	北熊本駐屯地業務隊
13	A	白石 克成	北富士	第1特科連隊第5大隊
13	A	高本 俊之	大久保	第4施設団本部
13	A	戸田 勝秋	松戸	霏品補給処
13	A	西村 繁樹	目黒	幹部学校教官
13	A	益田 修	目達原	九州地区補給処
13	F	松生 剛	芦屋	第13飛行教育団総務部長
14	A	赤瀬 良二	帯広	第5特科連隊
14	A	斉藤 正精	退職	日本IBM(株)
14	A	清水 重周	朝霞	東部方面輸送隊長
14	A	清水 直正	相馬原	相馬原駐屯地業務隊
14	A	中原 勇	千僧	第3師団幕僚長
14	A	原田 敏男	山口	第17普通科連隊
14	F	今井 岸男	退職	三陽機器(株)
14	F	高須 好美	退職	高須電気エンジニアリング(株)
14	N	森田 則広	逝去	
15	A	井口 昌之	大宮	化学学校主任研究員
15	A	上杉 和壽	海田市	第13師団第4部
15	A	大竹 義信	古河	施設補給処整備部整備管理課長
15	A	岡 隆	武山	第1教育団第104教育大隊長
15	A	長船 敬天		
15	A	奥野 耕三	宇治	関西地区補給処
15	A	加藤 三千夫	仙台	東北方面通信群長
15	A	遠田 雅美	千歳	北千歳駐屯地業務隊
15	A	土居 良治	帯広	第107地区警務隊長
15	A	野間口光男	退職	891-01鹿兒島県鹿兒島市皇徳寺台3-21-8鹿兒島大勤務
15	A	花房 晃夫	健軍	西部方面総監部調査部
15	A	古川 照久	松戸	第2高射特科群
15	A	三嶋 利克	檜町	檜町警備隊
15	N	今村 修二	檜町	海幕副監察官
15	N	中島 栄一	那覇	第5航空群司令
15	N	山下 啓介	退職	235-0024横浜市磯子区森が丘2丁目23の5
15	N	山崎 富雄	檜町	海幕調査課情報室長
15	F	島田 徹	入間	第1高射群副司令
15	F	福嶋 健司	浜松	航空教育集団教育計画課長

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
15	F	安村 幸次	退職	154-0016東京都世田谷区弦巻3-3-17A-203
16	A	内山 晃	小平	調査学校
16	A	岡田 正一	伊丹	中央総監部装備部
16	A	佐々木 二郎	防大	防大訓練部学生課
16	A	齊藤 健治	目達原	九州地区補給処
16	A	竹内 準一	岡山	岡山地連
16	A	富本 啓一	八尾	中部方面航空隊長
16	A	平川 真士	北千歳	第71戦車連隊長
16	A	芦岡 広明	北宇都宮	航空学校宇都宮分校教育課長
16	N	阿部 哲夫	横須賀	ちょうかいぎ装員長
16	N	福島 一夫	退職	新生電工(株)営業部
16	F	小笠原 猛		
16	F	八木橋 享	殉職	
17	A	荒木 正廣	大宮	化学学校教官
17	A	飯島 定雄	市ヶ谷	通信団本部
17	A	小池 保治	遠軽	第25普通科連隊長
17	A	小坂 正志	府中	調達実施本部
17	A	佐藤 吉信	明野	航空学校第1教育部長
17	A	鈴木 陽	檜町	陸幕装備計画班長
17	A	高橋 輝正	退職	
17	A	富安 久芳	富士	富士教導団本部
17	A	中尾 吉孝	目黒	東京地方連絡部
17	A	廣瀬 誠	檜町	陸幕防衛部運用課長
17	A	福澤 賢	檜町	陸幕監理部総務課企画班長
17	A	村田 芳次	武山	第117教育大隊
17	A	吉川 雄二	上富良野	第117特科大隊長
17	N	塔岡 道夫	呉	まつゆき艦長
17	N	西嶋 正幹		
17	N	久和 清幸	横須賀	横須賀戦術装置運用隊
17	F	石渡 幹生	千歳	第1基地防空群司令
17	F	稲見 潔	百里	偵察航空隊整備群司令
17	F	澤 博海	退職	739-0002広島県東広島市西条町吉行1-40
17	F	永富 信吉	檜町	統幕事務局1室
17	F	西岡 義博	府中	航空総隊司令部
17	F	細田 敏夫	退職	370-0864群馬県高崎市石原町1729-1
17	F	前田 慎一	浜松	浜松救難隊長
17	F	松田 清明	那覇	南西航空施設隊司令
17	F	山本 剛	退職	
17	F	磯野 茂樹	熊谷	空自第4術科学校第1教育部長
18	A	安藤 恒夫	小平	業務学校
18	A	上田 正文	練馬	東部方面総監部総務部
18	A	大西 正俊	座間	第3施設群
18	A	河野 基春	建軍	西方総監部装備部施設課營繕班長
18	A	川原 彰	真駒内	第101地区警務隊長
18	A	門野 睦廣	檜町	陸幕通信電子課通信器材班
18	A	工藤 重見	三宿	技術研究本部(陸付)
18	A	首藤 敏明	松戸	需品補給処
18	A	紫村 敬二	檜町	陸幕調査部運用室
18	A	千原 和人	松戸	需品学校
18	A	中島 仁文	健軍	健軍駐屯地業務隊
18	A	麩澤 章雄	鹿追	鹿追駐屯地業務隊長
18	A	宮田 秀二	木更津	第1へり団本部
18	A	渡辺 義幸	那覇	第1混成団高級幕僚
18	N	岩瀨 秀樹	檜町	海幕運用課訓練班長
18	N	近藤 清司	那覇	第5航空隊副長
18	N	平原 誠	大村	第123航空隊司令
18	N	松井 博	厚木	第51整備隊長
18	F	笠原 久	根室	第26警戒群司令
18	F	白数 裕樹	退職	615-0883京都府京都市右京区西京極南大入町54-5
18	F	長尾 齋	檜町	情報本部情調課総括班長
18	F	勘米 良幸一	市ヶ谷	補給本部

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
19	A	青柳 忍	富士	富士学校普通科部
19	A	迫田 直心	前川原	幹部候補生学校
19	A	園部 武典	檜町	陸幕調査部
19	A	津留崎 清宝	船岡	第2施設団本部
19	A	野村 俊朗	富士	装備開発実験隊
19	A	廣瀬 和紀	春日	福岡病院
19	A	東 光博	退職	279-0026千葉県浦安市弁天2-17-12
19	A	古庄 和裕	練馬	東部方面総幹部総務部
19	A	前之園 敏雄	大村	第4施設大隊長
19	A	三星 忠正	仙台	東北方面調査隊
19	A	屋久 俊郎	習志野	第1空挺団本部
19	A	横島 秋男		
19	N	松山 守秀	檜町	海幕装備体系課航空機体系班長
19	F	磯 光三	檜町	空幕調達第2班長
19	F	小曲 一之	目黒	幹部学校
19	F	郷田 進	檜町	空幕統計班長
19	F	後藤 章	退職	春日市若葉台西3-40
19	F	杉山 昌宏	退職	
19	F	園山 栄一	退職	北九州市門司東1-1-20-10
19	F	田中 秀明	檜町	施設庁
19	F	藤井 和弥	檜町	空幕整備基準班
19	F	松下 睦裕	檜町	空幕整備部
19	F	吉本 博	美保	第3輸送航空隊
20	A	浅原 昭夫	明野	飛行開発実験隊
20	A	楠本 裕幸	檜町	陸幕付
20	A	小林 実	富士	装備開発実験隊
20	A	榊 喜隆	札幌	101システム管理隊
20	A	高岡 正明	健軍	西部方面総監部防衛部
20	A	仲原 久晃	目黒	幹部学校
20	A	半澤 康司	東千歳	第7師団司令部第2部長
20	A	馬場崎 修	退職	
20	A	伏木 享	桂	第103不発弾処理隊長
20	A	山形 克己	檜町	陸幕装備部航空機課総括班長
20	N	木村 孝彦	目黒	幹部学校幹部高級課程学生
20	F	石田 裕	長野	長野地連募集課長
20	F	岸本 昌文		
20	F	高林 久	浜松	第1航空団
20	F	岳川 清美	三沢	北部航空方面隊
20	F	南園 宏	三沢	警戒航空隊
20	F	田中 和之	檜町	空幕術科教育班長
21	A	大谷 昭次郎	今津	第10戦車大隊長
21	A	加藤 隆	札幌	北部方面総監部防衛部
21	A	貴志 倫生	伊丹	会計監査隊中部方面分遣隊
21	A	桑原 幹夫	帯広	第5師団司令部法務官
21	A	湖崎 隆	福岡	第4師団司令部第3部長
21	A	澤井 研次	札幌	北部方面総監部防衛部
21	A	園田 郁夫	練馬	東部方面総監部防衛部
21	A	高橋 久奏	仙台	東北方面総監部監察室
21	A	野中 敏治	宇都宮	宇都宮営業隊総務科
21	A	花田 一志	仙台	東北方面総監部総務部
21	A	浜崎 勝	東千歳	第7後方支援連隊
21	A	渡部 誠	富士	装備開発実験隊
21	N	城山 宏	退職	
21	N	福岡 誠	船越	潜水艦隊司令部幕僚
21	N	村田 隆斉	目黒	幹部学校幹部高級課程学生
21	N	山口 次郎	小松島	小松島航空隊
21	F	木山 幸保	岐阜	第2補給処
21	F	黒澤 豊彦	市ヶ谷	補給本部
21	F	真田 雅章	府中	航空総隊司令部
21	F	朱 永武	留学生	シンガポール在住
21	F	杉本 弥行	入間	第3補給処

期別	要員	氏名	基地等	所屬部隊等
21	F	鍋島和史	退職	
21	F	沼田幸男	百里	偵察航空隊
21	F	平本行	三沢	北部航空方面隊
21	F	廣江勝馬	目黒	幹部学校付
21	F	松本修司	檜町	空幕総務課
21	F	田原俊幸	檜町	空幕防衛部防衛課
22	A	大本健吾	東立川	中央地理隊
22	A	財城昭彦	目黒	幹部学校幹部高級課程学生
22	A	島松正一	久留米	幹部候補生学校
22	A	永栄文晴	檜町	陸幕装備部開発課
22	A	野口利保	東千歳	第7偵察隊長
22	A	原田有繁	札幌	北方監察官付
22	A	松本俊二	札幌	北部方面総監部防衛部
22	A	松村利宏	檜町	陸幕防衛部防衛課
22	A	吉岡聖二	練馬	東部方面総監部防衛部
22	N	高塚裕幸	佐世保	によど艦長
22	N	塚田真司	横須賀	運用開発隊
22	N	中谷茂	佐世保	いわせ艦長
22	N	延近保生	下総	下総航空工作所形態管理科長
22	N	坊垣内広明	横須賀	第2潜水隊群幕僚
22	F	木戸文夫	千歳	航救団千歳救難隊長
22	F	小関信宏	府中	防空指揮群
22	F	酒井伸	芦屋	第13飛行教育団
22	F	堂込勝也	小牧	航空救難団整備群
22	F	永瀧盛重	入間	第3補給処
22	F	野村勝廣	檜町	空幕援護業務課
22	F	横手裕明	目黒	幹部学校付
23	A	奥野和男	旭川	第2後方支援連隊輸送隊長
23	A	谷崎敏弘	帯広	第5師団司令部第2部
23	A	廣塚雅史	檜町	陸幕防衛部運用課
23	A	日高政広	檜町	陸幕付
23	A	丸山和宏	留萌	第26普通科連隊
23	A	三木元秀	伊丹	中部方面総監部防衛部
23	A	若杉治徳	真駒内	第11師団総務課
23	A	岩田清文	玖珠	第4戦車大隊長
23	A	浦川平次	習志野	第1空挺団本部
23	N	井之久保雄三	呉	かしま副長
23	N	井口義定	檜町	海幕航空機課
23	N	数野謙一	横須賀	横須賀地方総監部人事課
23	N	畑中孝行	佐世保	とね艦長
23	N	山下啓治	目黒	海上自衛隊幹部学校研究部員
23	N	四元和生	呉	潜水艦教育訓練隊
23	F	池邊正	檜町	空幕防衛課
23	F	馬谷誠二	退職	東大阪市日下町3-1-5-319
23	F	川添一正	退職	
23	F	シンナロン	留学生	タイ王国在住
23	F	松尾茂	池尻	技術研究本部
23	F	宮田義章	那覇	第83航空隊
24	A	浅野博義	檜町	陸幕防衛部
24	A	稲葉貞志	檜町	陸幕装備部航空機課総括班
24	A	太田尚志	海田市	第13師団司令部第1部長
24	A	大久保和美	練馬	東部方面総監部防衛部
24	A	金田辰美	吉井	吉井弾薬支処
24	A	芹川慎介	市ヶ谷	中央調査隊
24	A	高澤慎司	退職	(株)東京アイシーエス
24	A	常田義則	退職	小田原市千代475-1
24	A	中村健蔵	三宿	技術研究本部
24	A	西津護	広島	広島地連
24	A	洲靖隆	竹松	第108高射直接支援隊長
24	A	堀之内誠	檜町	陸幕調査部第2課
24	A	山田雅巳	檜町	陸幕調査部

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
24	A	山川 純次	姫路	第3高射特科大隊長
24	N	小川 勝志	横須賀	ちよだ船務長
24	N	佐伯 泰啓	横須賀	はるさめ船務長
24	N	中村 早速	江田島	海自第1術科学校教官
24	N	長谷川 隆	退職	
24	N	松田 俊宏		
24	N	山本 浩	退職	北九州市小倉南区湯川3-8-16
24	F	佐藤 秀幸	入間	中部航空警戒管制団
24	F	清水 尚志	檜町	空幕調達課
24	F	出口 潔	入間	中部航空方面隊
24	F	中館 利光	檜町	空幕補給課
24	F	藤城 希恭	浜松	教育集団
24	F	山田 眞一	春日	西部航空方面隊
25	A	石川 哲也	練馬	東部方面総監部総務部
25	A	大内 元	三宿	技術研究本部
25	A	岡元 正一	郡山	第6特科連隊
25	A	小野 寺 靖	檜町	陸幕教育訓練部
25	A	小菅 康雄	相模原	技術研究本部第4研究所
25	A	佐伯 義次	伊丹	中部方面総監部人事部
25	A	重石 義幸	檜町	陸幕防衛部運用課運用1班
25	A	田草川 茂人	目黒	幹部学校
25	A	若本 順二	宇治	関西地区補給処
25	N	内山 哲也	呉	第4護衛隊群幕僚
25	N	籠谷 貴年	船越	プログラム業務隊
25	N	河村 正雄	佐世保	しまゆき船務長兼副長
25	N	杉原 耕二	船越	てしお艦長
25	N	高島 修	岩国	第8航空隊
25	F	安芸 一	浜松	第1航空団
25	F	尾崎 信朗	檜町	空幕通電課
25	F	坂本 卓己	那覇	第83航空隊
25	F	藤吉 恵一	檜町	空幕補給課
26	A	石川 毅	練馬	東部方面総監部調査部
26	A	内海 浩	明野	航空学校
26	A	小野 長門	退職	熊本(熊本工大)
26	A	及川 幸夫	檜町	陸幕防衛部
26	A	金子 寿弥	檜町	陸幕装備部
26	A	坂野 佳彦	富士	富士学校機甲科部
26	A	谷 俊彦	旭川	第2師団司令部第3部
26	A	滝沢 由則	退職	札幌市中央区南12西16滝沢由子方
26	A	友部 隆	札幌	第11師団司令部第2部
26	A	中村 明弘	退職	横浜市緑区長津佐3-27-14
26	A	河原 敏和		
26	A	松田 正行	札幌	第11師団司令部第3部
26	A	山下 清隆	檜町	陸幕調査部
26	A	吉田 英紀	檜町	陸幕副監察官
26	A	吉田 吉宏	古河	施設補給処
26	A	石山 暁	松本	第13普通科連隊
26	N	市坪 秀明	檜町	海幕運用課
26	N	上野 眞一郎	厚木	第51航空隊兼技術開発官付
26	N	佐藤 寿紀	檜町	統幕3室
26	N	杉山 義和	舞鶴	舞鶴地方総監部防衛部
26	N	道満 誠一	呉	潜水艦教育訓練隊付
26	N	平野 勝	舞鶴	舞鶴地方総監部防衛部1室長
26	N	水野 伸彦	八戸	第2列線整備隊長
26	N	相良 達也	厚木	第3航空隊
26	F	池島 暢也	百里	第7航空団
26	F	澤木 優輔	退職	
26	F	福島 陸	百里	第7航空団
26	F	星川 敦	新田原	飛行教導隊整備隊
26	F	米子 誠二	檜町	空幕装備部調達課
27	A	大石 隆一	市ヶ谷	中央調査隊第2科

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
29	A	川上 和美	退職	不明
29	A	駒井紀美彦	久留米	陸上自衛隊幹部候補生学校
29	A	坂井 辰也	海田市	第13通信大隊
29	A	新保 博徳	吉井	武器補給処吉井弾薬支所
29	A	鈴木総一郎	逝去	
29	A	託摩 安広	退職	001-0022北海道札幌市北区北22条西4丁目2-25
29	A	立林 剛	檜町	陸幕教育訓練部訓練課
29	A	谷 拓弥	北千歳	第1特科団
29	A	津田 芳明	檜町	統幕1室
29	A	中村 浩之	南与座	第326高射中隊長
29	A	古川 靖人	練馬	第1後方支援連隊武器大隊中隊長
29	A	古田 清悟	福岡	第19普通科連隊第2中隊長
29	A	水上 義仁	大宮	中央システム管理隊
29	N	柏木 均	呉	あきしお副長兼航海長
29	N	小屋敷秀彦	退職	371-0246群馬県勢多郡宮城村大字柏倉3693-3
29	N	佐竹 右幾	退職	926-0828石川県七尾市白馬町ワ部10-1
29	N	宮田 敏邦	佐世保	はるな航海長
29	N	山崎 浩一	江田島	幹部候補生学校学生隊幹事
29	F	熊田原 修	岐阜	飛行開発実験団
29	F	高松 実	檜町	統幕4室
29	F	西村 政恭	檜町	空幕通電課
30	A	池永 博和	檜町	陸幕装備部通電課
30	A	岩熊 真司	檜町	陸幕装備部武器化学課
30	A	魚躬 治晴	退職	175-0082東京都板橋区高島平2-33-7-818
30	A	魚住 晴康		
30	A	亀山 淳	富士	富士学校
30	A	笠島 広文	退職	916-0022福井県鯖江市水落町1丁目4-23
30	A	菅野 俊夫	健軍	第302通信支援中隊長
30	A	土屋 甲吉	檜町	内局長官官房
30	A	中井 馨	退職	520-3100甲賀郡石部町金ヶ町865
30	A	中村 大助	富士	富士学校特科部F O C学生
30	A	中川 洋行	明野	飛行開発実験隊
30	A	中森 雅美	檜町	檜町駐屯地業務隊付
30	A	西 良典	富士	富士学校学生
30	A	林 宏幸	札幌	会計監査隊北部方面分遣隊
30	A	福田 洋司	島松	第303武器野整備中隊長
30	A	船津 達男	退職	822-1100福岡県田川郡赤池町高尾通
30	A	松岡 恭一	退職	277-0083千葉県柏市日立台1-1-2-306
30	A	宮本 善弘	目黒	陸上自衛隊幹部学校
30	A	矢納 裕二	船岡	第416会計隊
30	A	山口 芳正	目黒	陸上自衛隊幹部学校CGS
30	N	鈴木 達雄	退職	854-0014長崎県諫早市東小路町805
30	N	時久 寛司	那覇	第5列線整備隊長
30	N	百崎 邦彦	館山	第121航空隊
30	N	湯浅 秀樹	呉	練習艦隊幕僚
30	F	栗田 尚幸	殉職	
30	F	黒田 健一	退職	651-2224兵庫県神戸市西区秋葉台3-45-29
30	F	後藤 豊	退職	544-0021大阪府大阪市生野区勝山南1-21-19
30	F	高橋 親敏	芦屋	航空自衛隊第3術科学校
30	F	西本 彰雄	目黒	航空自衛隊幹部学校付
30	F	橋爪 猛	目黒	航空自衛隊幹部学校付
30	F	吉田 憲司	目黒	航空自衛隊幹部学校付
31	A	石丸 威司	目黒	航空自衛隊幹部学校付
31	A	池ノ本八郎	檜町	中央資料隊
31	A	大島龍一郎	退職	593-8301大阪府堺市上野芝町8-1-4
31	A	亀山 慎二	千歳	第7師団司令部第3部
31	A	久保 敏浩	富士	富士学校機甲科部
31	A	佐野 光	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	A	推野 健治	立川	東部方面隊航空隊
31	A	田口 直志	土浦	武器学校
31	A	辰巳 竜悟	退職	675-1202兵庫県加古川市八幡町野村487-3

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
27	A	大場基美雄	檜町	陸幕調査部保全班
27	A	緒方 禎浩	退職	童話作家
27	A	大居 一之	三宿	技術研究本部 陸 第3開発室
27	A	川村 治彦	退職	305茨城県つくば市東2-10-2-201
27	A	行事 正	下志津	高射学校研究部第1研究室
27	A	角南 良児	檜町	陸幕防衛部運用課国際協力室
27	A	長合 友造	檜町	陸幕人事部人計課企画班
27	A	津田 浩司	富士	富士学校特科部訓練評価室
27	A	濱田 秀	防大	防大総合安全保障研究科学生
27	A	馬場 政和	退職	
27	A	舞原 博己	檜町	陸幕装備部通電課電子器材班
27	A	山之 上哲郎	檜町	陸幕防衛課業務計画班
27	A	米山多佳志	防大	陸上防衛学教室
27	N	小川 昌宏	舞鶴	舞鶴地方総監部防衛部
27	N	五領 隆男	横須賀	なだしお副長兼航海長
27	N	交口 俊介	檜町	海幕防衛部防衛課
27	N	中里 徹	退職	中島機械
27	N	益田 徹也	檜町	業務隊付 陸自小平調査学校
27	N	山田 洋士	檜町	海幕防衛部運用課
27	F	足立 謹聡	入間	救難団司令部
27	F	兼古 修	新田原	第5航空団第202飛行隊
27	F	甲斐 新太	市ヶ谷	補給本部第1整備課
27	F	蔵田 衛人	退職	665兵庫県宝塚市すみれが丘1-7-1-1106
27	F	沢村 徹	退職	194東京都町田市忠住3-14-3セジュール天野2-201
27	F	高野 宗治	檜町	空幕運用課横田連絡官
27	F	西山 利昭	退職	水沢税務会計事務所
27	F	堀田 隆治	檜町	空幕装備課計画班
27	F	元木 啓嗣	浜松	空自第1術科学校教務課計画班長
28	A	畦地 勇	退職	東京都小平市学園西町2-10-17-203
28	A	足立 哲彦	土浦	武器学校
28	A	岡沢 武彦	富士	戦車教導隊中隊長
28	A	北原 秀章	檜町	陸幕教育訓練部
28	A	幸野 英明	霞ヶ浦	霞ヶ浦駐屯地業務隊付
28	A	古賀 敏明	富士	富士学校
28	A	永井 大介	退職	
28	A	日高 信行	檜町	檜町駐屯地業務隊付
28	A	藤原 修	青森	第109地区警務隊長
28	A	三好 邦夫	富士	装備開発実験隊
28	A	矢野 光宏	檜町	陸幕教育訓練部
28	A	湯浅 悟郎	檜町	陸幕人事計画課
28	A	越水 達哉	退職	
28	A	吉田 正己	退職	
28	A	鶴見 耕市	退職	
28	N	鈴木 巧	退職	栃木県宇都宮市緑4-1550-84
28	N	竹本 直忠	舞鶴	舞鶴地方総監部人事課
28	N	西小路 謙	退職	奈良市生駒郡三郷町立野南2-12-2三室山コープ304
28	N	内田 公明	檜町	海幕技術1課
28	N	河津 稔	目黒	第4術科学校付幹部専攻科学生
28	N	平島 一	退職	
28	N	中川 勝也	退職	愛知県西加茂郡藤岡町大字石畳242-46
28	N	米田 健二	退職	東京都多摩市関戸2-40-3 1104
28	F	今井 邦夫	檜町	空幕補給課
28	F	神山 隆	退職	
28	F	白水 裕人	目黒	幹部学校
28	F	末広 勝己	岐阜	飛行開発実験団飛行隊
28	F	山田 顕嗣	防大	第31中隊次席指導教官
29	A	青柳 光	退職	山梨県中巨摩郡昭和町上河東543-1-30
29	A	浅川 玉樹	退職	神奈川県川崎市宮前区鷺沼1-18-16-20
29	A	蛭原 良雄	檜町	陸幕装備部武器化学課
29	A	大川 浩史	習志野	第1空挺団普通科群中隊長
29	A	甲斐 正人	大宮	埼玉地方連絡部

期別	要員	氏名	基地等	所属部隊等
33	N	関口 雄輝	船越	はつゆき航海長
33	N	高橋 真一		退職
33	N	西窪 純		退職
33	N	町島 敏幸	防大	防大第123小隊指導教官
33	N	渡邊 浩	防大	防大学生課補導係
33	F	新崎 秀樹	三沢	第3航空団第8飛行隊
33	F	岡本 秀文	千歳	特別航空輸送隊
33	F	田中 勝也		(株)兼松
33	F	荒木 俊一	小牧	航空自衛隊第5術科学校
33	F	高草木 浩寿	松島	第4航空団飛行群
33	F	増田 友晴		防大第141小隊指導教官
33	F	御厨 広之	三沢	第6高射群
34	A	石黒 太美英	神町	第6飛行隊
34	A	篠原 康一	土浦	武器学校
34	A	田中 一要	富士	装備開発実験隊
34	A	田丸 正勝	富士	富士学校普通科部
34	A	筒井 鋭達	都城	第43普通科連隊
34	A	能井 智治	土浦	武器学校
34	A	松永 康則	目黒	陸上自衛隊幹部学校
34	A	平林 理	真駒内	第11戦車大隊中隊長
4	A	氷室 正一郎		退職
34	A	竹内 博忠	岐阜	東陶機器松が丘 技術研究本部
34	N	富山 修	横須賀	うみざり砲術長
34	N	丹羽 満良	厚木	航空集団司令部
34	F	羽田 充伸	市ヶ谷	補給本部
34	F	小笠原 卓人	春日	第2高射群
34	F	河田 成治		退職
34	F	田代 秀也	当別	埼玉県上福岡市上福岡3-4-12ビル山田106
35	A	安藤 和幸	霞目	東北方面ヘリ隊
35	A	成田 重雄	習志野	第1空挺団本部中隊
35	A	川嶋 和之	北宇都宮	第12飛行隊
35	A	木場 元大	伊丹	第36普通科連隊
35	A	坂本 雄一	名寄	第3普通科連隊
35	A	瀬戸口 淳	八戸	第5高射特科群
35	A	中村 健太郎	習志野	第1空挺団普通科群
35	A	中本 尚明	市ヶ谷	第32普通科連隊
35	A	福本 博氏	山口	第17普通科連隊
35	A	馬淵 貴史	福島	第11施設群
35	A	袖之原 公郎	帯広	第1対戦車ヘリコプター隊
35	N	加藤 寛和	横須賀	みねゆき航海長
35	N	中原 俊行	呉	第4護衛隊
35	N	三浦 則文	舞鶴	第3護衛隊
35	N	森泉 周	館山	第121航空隊
35	F	中澤 武志	浜松	浜松救難隊
35	F	堀 修二郎	百里	第204飛行隊
36	A	井上 勝	朝霞	東部方面通信群
36	A	岩村 伝法		退職
36	A	榎窪 正和	青野原	第8高射特科群
36	A	大北 知史	駒門	第1戦車大隊
36	A	倉田 一	久里浜	通信学校付
36	A	中村 英昭	習志野	第1空挺団普通科群
36	A	日高 邦登	北熊本	第8特科連隊
36	A	福島 浩二	小平	調査学校
36	A	藤岡 史生	滝川	第10普通科連隊
36	A	前田 尚男	富士	特科教導隊
36	A	村上 至	横浜	中央輸送業務隊
36	A	矢口 鑑	駒門	第1高特大
36	A	山田 武彦	檜町	中央会計隊
36	N	鳥越 要	舞鶴	はまゆき航海長
36	F	綿森 昭示	防大	防大総合安全保障研究科学生
37	A	大山 剛	防大	防大理工学研究科学生

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
31	A	辻 政幸	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	A	中川 博英	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	A	橋本 哲彰	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	A	久富 博幸	退職	851-2125長崎県西彼杵郡長与町三根郷55-30
31	A	藤岡登志樹	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	A	松井 健一	富士	装備開発実験隊
31	A	吉武 辰明	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	N	蝦名 伸治	佐世保	せんだい船務長
31	N	岡田 岳司	呉	みねぐも砲雷長
31	N	大井 一史	防大	防大総合安全保障研究科学生
31	N	甲斐 義博	船越	はつゆき船務長
31	N	久保田修一	大湊	あおくも船務長
31	N	迫田 浩文	大湊	ゆうぐも船務長
31	F	阿部 博文	府中	航空気象群
31	F	北村 克晶	浜松	第2術科学校
31	F	小南 良人	殉職	
31	F	近藤 良彦	三沢	第3航空団
31	F	渋沢 寛	防府北	1 2 飛教団
31	F	野沢 隆一	千歳	第2航空団第2 0 3 飛行隊
32	A	市来 道啓		
32	A	大塚 裕治	目黒	陸上自衛隊幹部学校
32	A	大塚 和也	目黒	陸上自衛隊幹部学校
32	A	小原 真二	退職	エア-ニッポン
32	A	小田 益男	檜町	統幕5室
32	A	上山 聡	海田市	第4 6 普通科連隊
32	A	川崎 誠二	久留米	陸上自衛隊幹部候補生学校
32	A	境 孝明	目黒	陸上自衛隊幹部学校
32	A	更エ 雅彦	退職	634-0041奈良県橿原市和田町32-4
32	A	神保 俊昭	退職	和歌山県東牟婁郡古座町中湊531
32	A	田口 芳郎	退職	181-0002東京都三鷹市牟礼5-2-17-105
32	A	竹内 利治	伊丹	中部方面總監部防衛部
32	A	中村 裕亮	檜町	内局防衛
32	A	平田 雄嗣	富士	富士学校普通科部
32	A	福元 昌二	旭川	第2特科連隊第2大隊
32	A	福重 毅尚	目黒	陸上自衛隊幹部学校
32	A	山地 伸一		
32	N	河上 康博	佐世保	ひこしま艇長
32	N	後藤 幸英	退職	日本ヒューレットパッカー
32	N	澤本 武朝	退職	
32	N	松尾 研志	退職	
32	F	植村 茂己	三沢	警戒航空隊整備群
32	F	鈴木 憲	市ヶ谷	補給本部
32	F	高橋 秀雄	入間	中部航空警戒管制団
32	F	山口 直人	奈良	航空自衛隊幹部候補生学校
32	F	渡部 誠	岐阜	飛行開発実験団
33	A	池田 誠喜	霞ヶ浦	武器学校
33	A	大津 勝利	富士	特科教導隊中隊長
33	A	柿野 忠嗣	霞ヶ浦	武器補給処
33	A	川崎 英幸	退職	733-0874広島県西区古江西町22-16 ¹ 行高精2401
33	A	近藤 哲也	東千歳	第7特科連隊中隊長
33	A	郡山 直樹	湯布院	第3特科群中隊長
33	A	椎葉 博正	退職	116-0011東京都荒川区西尾久3-25-16 ¹ 竹ク ¹ リン502
33	A	谷口喜一郎	目黒	陸上自衛隊幹部学校
33	A	富樫 勇一	目黒	陸上自衛隊幹部学校
33	A	中塚 修一	東千歳	第7師団司令部第3部
33	A	半澤 新吾	退職	
33	A	久永 智	退職	アメリカンファミリー
33	A	細野 容司	小平	調査学校
33	A	山本 真也	勝田	施設学校
33	A	山本 裕一	退職	005-0001札幌市南区澄川1条4丁目6-14東コホ ¹ 107
33	N	鶴澤 直樹	退職	

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
37	A	河合 寿士	目達原	西部方面武器隊
37	A	児玉 洋	大久保	第4陸曹教育隊
37	A	冨原 大治	日本原	第13戦車大隊
37	A	平瀬 義	防大	防大理工学研究科学生
37	A	古田 和之	旭川	第2師団司令部第4部
37	A	森安 宏徳	市ヶ谷	第32普通科連隊
37	A	山下 豊	滝川	第10普通科連隊
37	A	吉田 文二	北恵庭	第72戦車連隊
37	N	石原 寿英	退職	
37	N	岩本 正行	厚木	厚プロ分遣情報処理P3C学生
37	N	木下 治信	防大	防大理工学研究科学生
37	N	鈴木 隆弘	横須賀	うみぎり
37	N	高取 哲郎	鹿屋	第1航空隊
37	F	久重 路 剛	赤坂	施設庁
37	F	塚原 敏夫	知念	5高群18高射隊
37	F	中居 景	千歳	第2航空団
37	F	矢坂 勝良	三沢	第3航空団
38	A	水野 亮二	霞ヶ浦	霞ヶ浦駐屯地業務隊付
38	A	奇藤 浩	神町	第20普通科連隊
38	A	宮下 克聡	旭川	第2特科連隊
38	A	黒子 智彰	防大	防大理工学研究科学生
38	A	尼子 将之	勝田	施設教導隊
38	A	高岡 徳人	伊丹	第36普通科連隊
38	N	高橋 俊隆	徳島	教育航空集団司令部付
38	N	中村 格	横須賀	うみぎり
38	N	城戸 利彰	徳島	教育航空集団司令部付
38	N	佐藤 滝大	徳島	教育航空集団司令部付
38	N	平井 穰治	死亡	
38	F	向井 洋史	築城	第8航空団
39	A	井上 嘉史	えびの	第24普通科連隊
39	A	井上 裕策	弘前	第39普通科連隊
39	A	遠藤 英隆	丘珠	第7飛行隊
39	A	小澤 謙雄	岩手	第9特科連隊
39	A	杉原 正典	東千歳	第11普通科連隊
39	A	達下 裕教	新発田	第30普通科連隊
39	A	中村 公多郎	八戸	第9後方支援連隊
39	A	長濱 誠	名寄	第3普通科連隊
39	A	西田 美嗣	旭川	第2後方支援連隊
39	A	野本 肇	北千歳	第1地对艦ミサイル連隊
39	A	三好 英治	立川	東部方面ヘリ隊
39	N	大松 清生	呉	のしろ
39	N	鳥越 涉	舞鶴	みょうこう
39	N	松崎 徹	佐世保	さわかぜ
39	F	大塚 晋介	高良台	第8高射隊
39	F	久保 敦	入間	第4補給処
39	F	前床 泰彦	浜松	教育集団司令部付
40	A	上野 洋介	名寄	第4高射特科群
40	A	朽木 誠	帯広	第4普通科連隊
40	A	高田 善行	古河	第1施設大隊
40	A	奈良 一志	海田市	第13通信大隊
40	A	永友 恒知	秋田	第21普通科連隊
40	A	熊本 巖	倶知安	第29普通科連隊
40	F	岩本 正臣	与座岳	第56警戒群
40	F	小坂 淳	浜松	教育集団司令部付
40	F	山田 賢治	佐渡島	第46警戒群
40	F	守井 孝志	浜松	教育集団司令部付
41	A	阿達 文明	函館	第28普通科連隊
41	A	吉村 裕樹	岩手	第9特科連隊
41	A	片上 裕文	明野	第10飛行隊
41	A	島ノ江 英毅	東千歳	第7後方支援連隊
41	A	川崎 英輔	富士	特科教導隊

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
41	A	曾我辺信久	北熊本	第8高射特科大隊
41	A	小林 貴	丘珠	第11飛行隊
41	A	綿貫 俊一	目達原	第4飛行隊
41	A	佐久間 博	神町	第20普通科連隊
41	A	中江 宏彰	勝田	施設教導隊
41	A	建部 広喜	滝ヶ原	第110施設大隊
41	A	石井 伸幸	高田	第2普通科連隊
41	A	小段 雄三	遠軽	第25普通科連隊
41	A	後藤 仁志	守山	第35普通科連隊
41	N	大川 洋史	退職	
41	F	三宅 英明	浜松	教育集団司令部付
41	F	和崎 拓己	三沢	北部航空警戒管制団
41	F	松下 尚之	背振山	第43警戒群
41	F	レイ・グバンデス	留学生	マレーシア

合掌

寒気いよいよ厳しき折りから、OBの皆様におかれましてはいかがが過ぎでしょうか。私共防衛大学校少林寺拳法部員も皆強健にて連日の寒さに負けることなく日々練習に励んでおります。

さてこのたび、防大少林寺拳法部誌も第24号を発刊するに至り名実、歴史ともに厚みを増してきた感がありますが、残念なことにここ数年の部員の減少という深刻な問題も同時に浮き出てきております。本年度は、この問題に対し政権、部員一丸となって諸先輩方の築き上げられてきた輝かしい伝統を次の世代に引き継ぐべく、また自分たち自身の経験、成長の為にも背水の陣で対処していく所存であります。年頭からあまり喜ばしい話題ではありませんでしたが、今年は「戊寅」の年ということもあり、その虎にならって「虎躍龍騰」「生龍活虎」の如く部員を確保し、成果を残す所存であります。OBの皆様におかれましては、何かとご多忙中とは存じますが、今後とも御指導御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後に、本部誌発行にあたり、御指導下さった部長、監督、顧問の方々をはじめ、投稿してくれた各学生に感謝し、編集後記と致します。

結手

平成9年度OB係
與藤 公彦

